

## セミナー「地震発生確率 ー理論から実践までー」

平成17年3月23日に「全国を概観した地震動予測地図」が地震調査研究推進本部地震調査委員会より公表されました。この地図は、兵庫県南部地震の教訓を踏まえて発足した地震調査研究推進本部の10年間の調査研究の成果の集大成として作成されたものです。

「全国を概観した地震動予測地図」は、地震発生 of 長期的な確率評価と強震動の評価を組み合わせた「確率論的地震動予測地図」と、特定の地震に対して、ある想定されたシナリオに対する詳細な強震動評価に基づく「震源断層を特定した地震動予測地図」の2種類の性質の異なる地図から構成されています。この「地震動予測地図」が公表されて以降、首都直下地震の30年以内の発生確率は70%、震度6弱以上の地震に見舞われる確率25%といったように、新聞報道等でも地震及び地震動の確率が具体的な数値で示されることが多くなってきました。しかし、ある領域内での発生確率と、個別の震源での発生確率の関係などが正しく理解されているとは言えないのが現状です。そこで、本会では、自治体や企業の防災担当者や耐震技術者等を対象として、地震発生確率に関する講習会を開催し、地震発生確率の算出方法とその捉え方、災害リスクマネジメント等への活用など、理論から実践までを具体的に丁寧に解説します。

日 時：平成20年4月22日（火）14：00～17：00

会 場：建築会館ホール（東京都港区芝 5-26-20 建築会館内）  
会館案内地図 <http://www.aij.or.jp/jpn/guide/map.htm>

主催：日本地震工学会

後援（予定）：（社）日本地震学会、（社）地盤工学会、（社）日本建築学会、（社）土木学会、  
（社）日本機械学会、日本活断層学会

### プログラム

- （1）確率論的震源モデルと地震発生確率（東京大学地震研究所 島崎邦彦 教授）
  - ・地震発生確率算出の根拠（過去の地震、断層のトレンチ調査等）
  - ・地震発生確率の算出手法（固有地震、震源を特定できない地震）
  - ・具体事例を用いた地震発生確率の意味と危険性の捉え方、など
  
- （2）確率論的地震ハザードの算出方法（清水建設(株) 石川 裕 氏）
  - ・地震発生確率および確率論的地震ハザードの算定方法
  - ・確率論的地震ハザードの災害リスクマネジメントにおける活用方法、など
  
- （3）確率論的地震動予測地図の社会的意義と使い方（防災科学技術研究所 藤原広行 氏）
  - ・確率論的地震動予測地図の概要と、作成の経緯、目的、社会的意義
  - ・想定される確率論的地震動予測地図の利用方法と今後の展開、など

定 員：130名（先着順）

受講料：(1) 日本地震工学会会員：3,000円（学生会員1,000円）

(2) 後援団体会員：4,000円（学生会員2,000円）

(3) 会員外（上記会員以外の方）：6,000円（学生3,000円）

※受講料にはテキスト(説明用スライドの縮小版)代金が含まれます

**申込方法**：申込み用紙は日本地震工学会ホームページからダウンロードして、必要事項をお書きのうえ、メールあるいはFAXにて日本地震工学会までお申込ください。お申込と同時に参加費を銀行振込、郵便振替にてお支払ください。確認次第、参加票をお送りいたします。なお、公費支払い等で請求書をご希望の方は通信欄にその旨ご記入ください。

**申込み・問合せ先**：

日本地震工学会事務局

〒108-0014 東京都港区芝 5-26-20 建築会館内

電話：03-5730-2831、Fax：03-5730-2830

電子メール：office@general.jaee.gr.jp

ホームページ：http://www.jaee.gr.jp